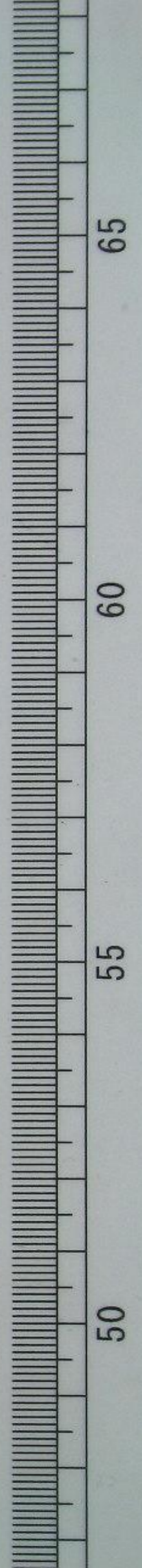




耶教
 教書之
 野宮
 百集
 自然指掌
 光

津田文庫
 文庫 1
 1764
 19



早稲田大学
図書館蔵書

新野

つだ文庫

浮しれ後の皮もいまそく後
 ちとのとかん 是の書も
 國乃からいりせられしる名
 あり初我人のあらはまらしむるはたとも
 於りの只のとりせんとりしる書もいまそく後

010190605464

那利
一

ふりあり
とまじりもあはれ
なまじり
とまじり
とまじり
とまじり

とまじり
とまじり
とまじり
とまじり
とまじり

とまじり
とまじり
とまじり
とまじり
とまじり

とまじり
とまじり
とまじり
とまじり
とまじり

とまじり
とまじり
とまじり
とまじり
とまじり

とまじり
とまじり
とまじり
とまじり
とまじり

とまじり
とまじり
とまじり
とまじり
とまじり

とまじり
とまじり
とまじり
とまじり
とまじり

とまじり
とまじり
とまじり
とまじり
とまじり

とまじり
とまじり
とまじり
とまじり
とまじり

とまじり
とまじり
とまじり
とまじり
とまじり

とまじり
とまじり
とまじり
とまじり
とまじり

一

一 村ありありのまはるるの夕ぐ日

二

二 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

二 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

二 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

二 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

三

三 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

三 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

三 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

三 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

三 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

三

三 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

三 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

三 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

三 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

三 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

三 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

三 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

三 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

三 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

三 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

三 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

大一年也種しけ仙家と安しめは

市年一子歳さよらあふくまは

一夫乃こんちやうらふらふのこ

捕てあつらひん三行さあふらん

毛の仙家酒乃若也三行かうらふの

一三行の同く仙家の者あり

余のらよらと菊乃酒大行茶花の

一三行ちやうらふ大行あふらん

一と安全と人のク大行茶花と

一三行れは怪ひの場乃若の菊乃

一三行くふらや春ふよめられ

一三行くあふれ菊あふらん

郭郭

七

男乃舞あれどまろと純くはひつ
 悦ひ乃奔れどまろと純くはひつ
 よひひり日と出ぬるもく
 むらさきと出ぬるもく
 上卷
 雲のたけ
 上卷
 友かどなり
 上卷

交秋を別本の草書(日)のたけ
 上卷
 夕の西白もあまのたけ
 上卷
 以えのくぐり十年の業花もつた
 上卷
 て花の身の中をれは書もく
 上卷
 うせ果くもつる新新乃花乃上に殿
 上卷

十年の執事も王位よめれしを世
 笑へりも一炊の爰 ありし実
 くよしくあつし難く
 るらあつしは枕ありて爰あつし
 朝の爰あつしあかん乃爰の世
 とあつしりえさるるあつしゆりり

教生石

曲出一祖
位中經居

第三段

剛

心とさそふ雲水れく

よあまよ 先んかあま

道人ありたりならぬな

まよふ人あまのあまの目とほく

あまのあまのあまのあまのあま

こゝろをいかにせんか

のほろをいかにせんか

まぢりまぢりをいかにせんか

かまをいかにせんか

のほろをいかにせんか

まぢりまぢりをいかにせんか

のほろをいかにせんか

まぢりまぢりをいかにせんか

こゝろをいかにせんか

のほろをいかにせんか

まぢりまぢりをいかにせんか

こゝろをいかにせんか

る余中のイあはれ整の句あはれ
あはれ

何のいへばいへばいへばいへば

しうイあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれのあはれあはれあはれあはれ甲

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ乙

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ丙

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

早
ひあふちらくわねの第^三れもあ^三

ら^早のれ^早の今^三あ^三

ま^{上書}あ^三のま^三は^三あ^三の^三く^三あ^三

ま^三ら^三に^三あ^三も^三あ^三の^三あ^三

て^三あ^三ら^三あ^三あ^三あ^三あ^三あ^三

あ^三あ^三あ^三あ^三あ^三あ^三

あ^三あ^三あ^三あ^三あ^三あ^三

あ^三あ^三あ^三あ^三あ^三あ^三

あ^三あ^三あ^三あ^三あ^三あ^三

あ^三あ^三あ^三あ^三あ^三あ^三

あ^三あ^三あ^三あ^三あ^三あ^三

あ^三あ^三あ^三あ^三あ^三あ^三

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

よきし合ふていあんら成修

め佛神志んよまの善んさあさん世川

志也口よ 石に情ありあに名あり

風いふさよはひさる かくらとまを

わさ石の二河よさるしむまん

くらあらあくま道からあえりわ

あまあひりし河よひひあは

あまあひりし河よひひあは

らまあひりし河よひひあは

何とあひりし河よひひあは

くらまあひりし河よひひあは

くらまあひりし河よひひあは

里

塾

ふくむはたしめんはむらりあり

くろかりあり

くろかりあり

ちんちんあり

伊奈とあり

海あり

めづるあり

はあり

志あり

いあり

くあり

ああり

下ニテ
ああり

のよおしく、
 ちうちうぬれんを、
 のりとうひくびらちあくと、
 中さうくひに、
 石川方面くちくそ、
 同く、

野宮

是ハ德國一見ノ傍トシテ、
 程ハ都ぶらひく、
 町ハ都ぶらひく、
 て、
 のりとうひくびらちあくと、
 中さうくひに、
 石川方面くちくそ、
 同く、

あはれなるはなはれなる
あはれなるはなはれなる
あはれなるはなはれなる
あはれなるはなはれなる
あはれなるはなはれなる
あはれなるはなはれなる
あはれなるはなはれなる
あはれなるはなはれなる
あはれなるはなはれなる
あはれなるはなはれなる

あはれなるはなはれなる
あはれなるはなはれなる
あはれなるはなはれなる
あはれなるはなはれなる
あはれなるはなはれなる
あはれなるはなはれなる
あはれなるはなはれなる
あはれなるはなはれなる
あはれなるはなはれなる
あはれなるはなはれなる

野宮

く 枝 ー り ー ば ー り ー ち ー ん ー せ ー ち ー ち ー ー

色 ー あ ー れ ー 物 ー の ー さ ー ひ ー ー 枝 ー ー ち ー ー ち ー ー

ち ー ち ー り ー ひ ー ー 神 ー の ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー

々 ー ま ー ー ち ー れ ー ん ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー

さ ー め ー 花 ー ふ ー り ー り ー ひ ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー

の ー あ ー ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー

ふ ー と ー ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー

ち ー ち ー ち ー の ー り ー り ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー

く ー ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー

の ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー

あ ー ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー

あ ー れ ー く ー ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー

枝 ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー ち ー

Handwritten text in cursive script, starting with a large initial character that appears to be '者' (Sho).

Handwritten text in cursive script, starting with a large initial character that appears to be '者' (Sho).

Handwritten text in cursive script, starting with a large initial character that appears to be '者' (Sho).

Handwritten text in cursive script, starting with a large initial character that appears to be '者' (Sho).

Handwritten text in cursive script, starting with a large initial character that appears to be '者' (Sho).

Handwritten text in cursive script, starting with a large initial character that appears to be '者' (Sho).

江戸
江戸の若衆は
皆、お茶の間に
お茶を飲むが
若衆の茶は、
お茶の間に飲む
茶である。

お茶の間に飲む
茶である。

お茶の間に飲む
茶である。

お茶の間に飲む
茶である。

お茶の間に飲む
茶である。

お茶の間に飲む
茶である。

お茶の間に飲む
茶である。

お茶の間に飲む
茶である。

お茶の間に飲む
茶である。

お茶の間に飲む
茶である。

お茶の間に飲む
茶である。

お茶の間に飲む
茶である。

女メの得移んよりふはあ

うららぶらぶらおぶらうららぶら
うららぶらぶらおぶらうららぶら
うららぶらぶらおぶらうららぶら
うららぶらぶらおぶらうららぶら

あつちあつちあつちあつちあつち
あつちあつちあつちあつちあつち
あつちあつちあつちあつちあつち
あつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつち

野言

おののちらふくじふんをね

吉兆

ありまけんウまむらりくまのん

くあふぬはくしんあはまの

女上

まもわのりてまらあはま

まふまのりてまよま

まふまのりてまよま

まふまのりてまよま

まふまのりてまよま

まふまのりてまよま

まふまのりてまよま

まふまのりてまよま

まふまのりてまよま

夫ふより後さくれ夫ふより
 妻やりののけの若る家くは
 夫なるあまじりあひのいん
 せんははれはれとさあか
 けのまのたうちまのた東秋
 けのまのたうちまのた東秋

月さるのまのまのまのまの
 つるまのまのまのまのまの
 いのまのまのまのまのまの
 如もあひのまのまのまのまの
 もあひのまのまのまのまの
 車はあひのまのまのまのまの

〆
 りの車あきぬけり推
 止り家の田
 あり物くるはうけに女
 めあひのよ田
 くるき女
 〆
 〆
 〆
 〆

〆
 くるきくる田
 りて人あき上野宮
 〆
 〆
 〆
 〆
 〆
 〆
 〆

夜うららかにあつた

あつたあつたあつたあつた

くわくわくわくわくわく

月上女の中上女は

の月上女も上女あつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

野宮

十一卷

て風...
あ...
よ出入...
...
...
...
...
...

可憐

行...
...
...
...
...

しては又いほらるる大念佛

よその程よじりていりては

まじりていりていりていりて

わらわらるる念仏の拍子もいり

上
らあんとていりていりて

あまの河もいりていりていりて

もを河の念仏
あじりていりていりて

あじりていりていりていりて

あれやまもいりていりていりて

あまの河もいりていりていりて

あまの河もいりていりていりて

あまの河もいりていりていりて

百万

ふいの女らり車よあくる

つひを流女すおりのたひわ

あひまらあひま地しもの

あしりらり下ねわのりあひ

わし上らあまやせしりあ

あひらあひらりりた

あひらあひら下らりり

あひら地りりりりり

あひら下りりりりり

あひら下りりりりり

あひら下りりりりり

車地あひらりりりりり

世に...
世に...
世に...

...
...
...

何...
何...
...

終...
終...
...

中...
中...
...

...
...
...

ら...
ら...
...

...
...
...

青
...
...

見...
見...
...

甲
...
...

...
...
...

おのころのさかきとてはなれぬ

よなきしとてはなれぬ

礼甲きくはよ 板甲今もはなれぬ

乃あつた嬉しむるはなれぬ

おのころのあはれはなれぬ

よらぬとてはなれぬ

我よのあはれはなれぬ

えとてはなれぬ

あつたのあはれはなれぬ

おのころのあはれはなれぬ

程くんとてはなれぬ

あつたはなれぬ

ぞれは付くともおとくさるる法ある

舞ともふくありまわしてわ

くふよびてけあくもけしほはら中

この長子とさるる人か 我子よあふ

び乃神あれや親みあふび乃神あ

まや百万り舞とらん人 女まわよ

ろの乃舞の袖

地 我子乃ゆゑ行

ふあり

女 まわ

らんはれはあくと

てもはあつたやとまゝあむ可より古の

色あふび世のるも何くの程そわ

半女より多のからよゆりの多のちやく

枝乃あつたよあつたまるる世中ら

下
 わし波乃よる人につく書あるがの
 果いらあらのとれ指乃露乃古
 せら ^{廿上} 元年月日
 日
 ぼしもに母がけし中のかうり乃
 未のたうりじりしとあぬあ
 養乃ありんあつてあつそ ^{廿上} 月

乃枕志ん波乃 ^{廿上} 暮らるあれたあ
 名
 きたし頃のこのよのりれこもりて
 どの色ゆくも色孫らけ人のあれた
 源とん袖乃志しと様あれたよ
 かのあつ年あつるあつる月の新
 物 ^{廿上} 乃ちもの柳陰よりりみ

くもなきは現しうり上母たんと

法と尸も清母もや母人乃春嘉

乃清もあなれ身はも清母とかがあひ

あふ乃そり身いんや人乃るを

あへもろふ母と照しもあひもひ

くもなきは現しうり上母たんと

のり多るれ子あふは乃袖もれも百方

舞とと久比わしれ子もわ

是程あがし人乃中よあしやれ子

あなやんがしらもあしや

れ子もあふもあしやらじふ佛と

れ人あしはあふもあしやらじふ佛と

傍のほふせしくま右らるるふたは

い二親の志やう其れ院仏果の為

身の代敷一まを^ト實ふくやう

まの代敷は酒夫のひんあう一敷と傍

まの代敷は酒夫のひんあう一敷と傍

乃ひんあう親の^書あま代敷

めし^二ま^一づく^二浮^一よれ中^二と^一さく^二出^一

先のうせんのひ徳友小^二同^一一^二巻^一

生まんと傍よあふ^二ま^一ひん^二う^一ま

清乃袖とぬ^二せ^一ら^二う^一の^二袖^一ぬと

まの袖とぬ^二ま^一ぬ^二人^一い^二あ^一く

^書か傍ふい^二ま^一の^二東^一國^二う^一ろ^二人^一高^二人^一

よそい裁い交初よよりわあし入

と買たあてい又十世あつりあぬと買

たていりまのふあし一のる馳とて

い後ふわりていりいまましゆくは作

あふ海りいりまのふあしあむたあ

あつりあつりあつりあつりあつりあ

よ後法りあつりあつりあつりあ

いあつりあつりあつりあつりあ

いあつりあつりあつりあつりあ

あつりあつりあつりあつりあ

あつりあつりあつりあつりあ

あつりあつりあつりあつりあ

乃^{相云}はるる分よしの故に

高人ある某方よりくる

松本(某)のつらむらうに

てい^三賢法出のふんとして

くは神よりしていかに

の^{相云}ふんとしていかに

の今日造る法説法に

よく説法の目目よ

善あること并へん

の善人高人の善人

よ^下善人あるは

の^下善人の善人の

たれくもをいせ人も一自然の音

とまいたる理ありひらりと

いそみくあひゆるよとまりよとまり

りらとわたりり一行ららららら

ららららら一行ららららら

ららららららららららららら

今漕をひる舟あはひらららら

ららららら一行ららららら

まららららら何の月らん一行ら

あはららららららららららら

法のあはららららららららら

あはららららららららららら

自然

みみだゆみ 情 三ひらりひらり

社は流るおちのお袖のあしきさる

糸おとゆはて叶うとせよんたなほ

よひこつらぬりぬりぬりぬりぬり

高嶺をたまひる夜ふ寝れく

とてらへんてらへんてらへんてらへん

とてらへんてらへんてらへんてらへん

あつたの世のあつたの世のあつたの世

何いおをあつたの世のあつたの世

かたはあつたの世のあつたの世

とてらへんてらへんてらへんてらへん

後ろをたもつたの世のあつたの世

柔くおひし

^属

あはれおひるゝ

よらぶあつり

^{ニテ}あつり

袖もふしよりさへ

あつり^{ニテ}あつり^{ニテ}

何^{ニテ}の^{ニテ}あつり^{ニテ}

あつり^{ニテ}あつり^{ニテ}

あつり^{ニテ}あつり^{ニテ}

あつり^{ニテ}あつり^{ニテ}

あつり^{ニテ}あつり^{ニテ}

あつり^{ニテ}あつり^{ニテ}

あつり^{ニテ}あつり^{ニテ}

あつり^{ニテ}あつり^{ニテ}

中より又いふの法よく知らぬ

まゝに後々もいふ所も奥の奥の

國々ありてありありありあり

毎より流ありありの傍所より

傍所よりいふ所よりいふ所より

ゆゑに今いふ所よりいふ所より

まゝいふ所よりいふ所より

あつていふ所よりいふ所より

福んといふ所よりいふ所より

いふ所よりいふ所より

何となくいふ所よりいふ所より

いふ所よりいふ所より

商人の都より人へ寄るる事

うとせしむる事

んぞとせしむる事

しむる事

よとせしむる事

ほとせしむる事

をたつ事

意らく身よりあつる事

以ての事

ちとせしむる事

たつ事

移るる事

あましのほろおきにしてハマーをたす^テ一

てあまきんらゝ舞あまきんらゝあき

早^日あまきんらゝ舞あまきんらゝあき

く流流流のくくくくくくくくく

のあまきんらゝ舞あまきんらゝあき

あまきんらゝ舞あまきんらゝあき

あまきんらゝ舞あまきんらゝあき

あまきんらゝ舞あまきんらゝあき

あまきんらゝ舞あまきんらゝあき

あまきんらゝ舞あまきんらゝあき

あまきんらゝ舞あまきんらゝあき

あまきんらゝ舞あまきんらゝあき

多んたはあなを換りてと

くおあつてととあつてと

よまてらあつてとと

ていあつてととあつてと

あつてととあつてと

よまてらあつてとと

あつてととあつてと

よまてらあつてとと

あつてととあつてと

よまてらあつてとと

あつてととあつてと

よまてらあつてとと

花の末あるはきり嵐はちる木の
 もあまうらひは又熱らむむし
 色こまに落るるも一れよに葉つ
 志のくはくはあまらあむも
 柳のらひ吹くる風はあむはひより
 木葉のさくはるのさるあむはひより

あむはひよりあむはひよりあむはひより
 葉をさくはるはひよりあむはひより
 てあむはひよりあむはひよりあむはひより
 めもかひは嵐とわ^{上テ} 花のらむのせ
 んの^{日え}あむはひよりあむはひよりあむはひより
 むの^{日え}あむはひよりあむはひよりあむはひより

るに接する数珠と云ふことと接

しむるに接する数珠と云ふことと接

又云ふに接する数珠と云ふことと接

らの竹の葉の青より紅合せしと接

るに接する数珠と云ふことと接

接する数珠と云ふことと接

また云ふに接する数珠と云ふことと接

るに接する数珠と云ふことと接

また云ふに接する数珠と云ふことと接

るに接する数珠と云ふことと接

また云ふに接する数珠と云ふことと接

るに接する数珠と云ふことと接

自然

十七終

ぶらぶらあひらくくわくわくこの竹
 のしらふらふの氷るさくくと靴
 とまきしからぬねねあふ
 も法のなる今のあふのあふよあふ
 船乃らりりしてさうさうらりり
 しあひらりのあひらき

ま

+

ま

一
 一
 一

ま

